常磐文藝

高月會

夏木立繁みの中に無名の祠　閑月
旅仕度繕ふ妻や夏木立　松童
温泉場かけて馬で急ぐや夏木立　叟石
雨蛙動くともせず夏木立　夢吉
古城跡趾の裏路細し夏木立　紅陽
落伍兵佇む二人夏木立　耕影
水郷に壽筆振ふや夏木立　同
辨天の社は朽ちて夏木立　牛城
雲介の撲打の聲や夏木立　雪村
アトリエの屋根の瓦や夏木立　大北
踏切の制札古し夏木立　牛玉
夏木立下に馬夫等の晝寢哉　不染

郷土社（ふるさとや）

各種古本高價買入
新古本交換及販賣
出版物編輯及飜譯（英）
傳記及系譜調査及編著
移店急告
平町白銀町三番地
（帝國館裏通り）

美味と經濟の
西洋御料理
丸昇軒食堂
電話長四三九番
（丸昌材木店隣）
御入浴も御隨意ですから御散歩の折に是非お立寄を願ひます
……女給募集……ボーイ

建築ペンキ塗
美術諸看板
硝子金銀文字
其他各種
大音堂
平町四丁目

しるしはんてん
印袢天
弊舗の萬言よりも華客の一言にあり
手拭・風呂敷・消防被服・刺子類一切
柏屋染物店
柏傳刺子部
平町材木町

貸家
白銀町……三、〇〇
仲間町……四、〇〇
櫻町……三、〇〇
柳町……六、五〇
三、五〇

賣地
平町白銀町
加藤營業所
電話三二番
五丁目十一番
宅地百六十二坪

寄附者芳名廣告
合計壹千五百八拾五圓
一金五拾圓　武田精一殿
一金貳拾圓　小野圓次郎殿
一金貳拾圓　關内半平殿
累計壹千六百七拾五圓也
本廣告ヲ以テ領收書ニ代フ
大正十三年七月十七日
大瀧發電所
許可反對　同盟會

買イ好イ店
壽ルヲ安クヲ良
クーリースーリークー
舗藥内關
助弗内關師劑藥
電話四〇番

御設備下さい
文化生活の强敵なる恐るべき蠅の撲滅の爲に驚くべし一匹のハイは、百參拾萬の細菌を保有して居るそうです
蚊とり兼用器
特賣の特許のハイトリツク　特價金四圓五拾錢
平町五丁目（電話長九番、一三九番）
和洋銅鐵金物問屋
釜屋商店

暑中御伺
四倉町
磐城セメント株式會社工業所
陽農電話十三番
電略（四セ）又ハ（四）

株式賣買中値

左記の値段は本日の標準値に付御用の節は御問合願候

銘柄	拂込	時價
磐城銀行	四〇〇	四五三
平銀行	五〇〇	七一〇
磐越銀行	一二五	一〇五
磐城實舊	五〇〇	四三〇
磐城實新	三〇〇	二九〇
田村實銀	一二五	一二五
四倉銀行	一七五	一七五
農工銀行	二〇〇	二四五
同　新	一五〇	一八八
百七銀行	五〇〇	五五〇
同　新	一二五	一六〇
七七銀行	一二五	九八
郡山電氣	五〇〇	三六五
同　新	二五〇	一六〇
只見川電	一二五	六五
植田水電	一二五	一五五
好間水電	一二五	一三〇
磐城建物	一二五	五〇
磐城製菓	二〇〇	四〇
平信託	五〇〇	二五〇
磐城勸業	一二五	一三五
植田物産	三〇〇	二六〇
平製氷	二五〇	二三〇
好間軌道	五〇〇	三三〇
入山新	三二五	一七〇
小田炭礦	二五〇	六〇
磐城炭礦	五〇〇	四一〇
同　新	二二五	一八〇
磐城セメント	五〇〇	六四五
同　新	二五〇	三四五
平運送	一二五	八〇

賣買誠實懇切機敏に御取扱申候間多少に不拘御用命願候

平町田町　電話三二二番
丸登株式店
川添房二郎

常磐毎日新聞
七月十七日夕刊
價一部金貳錢　廣告料（月極ニ限リ）五十錢　（五號十二字詰一行）　（休刊日ノ翌日）
定期一ヶ月卅錢
福島縣石城郡平町田町卅六番地　印刷所　一〇活版所
福島縣石城郡平町字長橋町卅五番地　發行所　常磐毎日新聞社
發行兼編輯人　印刷人　川崎文治

寄書

貴族の贅澤問答

中山雅司

奢侈品關稅引上が大問題となつて來た、衆議院は國民の精神的緊張にありとの題目に共鳴して通過したが平素贅澤三昧に生活せる殿樣方の楯籠る貴族院に於ては此垣一重の秋嘆を政府當局に喞たしめている

今日の貴族、古への雲上人にあらず、暮夜密つと月に浮れ花を手折り、また晝中公然待合に獵犬を繫ぐ程に平民化せる人々が貴族院に於て、贅澤とは何ぞやの珍質問を藏相に浴せ、藏相之に答へて贅澤とは分不相應の奢を言ふなり、即ち收入に對し不均衡の消費是れ贅澤と定義を示せば、更に金ある者がそれ丈の贅澤を盡すも敢て罪惡視するに及ばぬ、却て經濟上の圓融を自在にする所以と二の矢を放つた貴族の論が、果して國民に何と響くか

斯く貴族の徒が單に枝葉論に陷り小學生が教員に質問するが如き、不眞面目さを以て贅澤問答を繰返すが如きは甚だ不都合千萬である、金のある者贅澤勝手次第と言ふ如きは、昔武士の斬捨御免と同樣單なる我儘のみにあらずして罪惡である、國民思想上何う響くかを檢討するに於て、謂ふべからざる戰慄を禁じ得ざる者筆者のみにあらざるべきを信ず

國民の思想惡化を防ぐ爲めには、現代の貴族富豪階級は努めて、隱蔽より開放へ、倨豪より謙讓へ、豪奢より質素へと民衆的改造の途に進むべきである、然るに此の不謹愼なる言辭を弄して恥ざる所以は、現代文化の理解乏しきに依る、此不眞面目と不忠實は貴族階級に止まらず今や一般社會に及べり、今日程國民一致緊張の必要に迫る秋なく今日程貴族富豪の敎育を識者に煩はしたい時はない。

許可反對同盟會員 五名未決に收監さる

石井東日記者の告訴に依り

……昨夕拘留狀執行

大瀧發電所問題に關し利權組一派に加擔し徒らに曲筆舞文的筆鋒を以つて讀者を惑はさんとする新聞通信員に對し好意的の忠告を爲さんと許可反對同盟會幹部が東京日日新聞平通信員石井虎男を福島民友支局に訪問し拷問の結果詐證文を書かしめたるは既記の如くであるが其後石井は多數を借りて此行働に出でたるは脅迫なりとて平檢事局に告訴に及んだ爲め梅村檢事係りにて取調べ中の處昨日平消防組小頭鈴木長三郎胡摩澤區長花澤久一郎、大工町衛生區長佐藤長造平青年團副團長馬目武之助、大工町青年分團長多々井笑次郎の諸氏は起訴直ちに豫審に附され宇留野判事の拘留狀に依つて昨夜平刑務所未決房に收監された

友の身の上を案じて

事務所の混雜

同盟會幹部五名收監の悲報至るや平全町民の驚愕一方ならず同會事務所たる協樂亭には友の身を氣つかふ見舞客刹到して事件の內容を聽取せんと非常なる混雜を呈し一方同盟會幹部は家族の訪問及び差入品の整理善後策の打合せ等に繁忙を告げ夜更くる迄人聲絶えなかつたが平町辯護士の大半は自發的に同事件の辯護を引受くべき申出あり且つ同盟會員は暑熱の獄中に呻吟する友の身の上を思ても目的の達成は是非共これを果さざるべからずと悲壯なる覺悟を定めて暗愁の中にも流石に意氣軒昂たる光景であつた

同盟會幹部が善後策協議

本日三時から

大瀧發電所許可反對同盟會にては本日午後三時から事務所に於て常任委員會を開き收監された同盟會幹部に關する善後策を協議し今後の會務方針を附議した

青沼氏が調停を退く

距離甚しく

青沼鋒太郎氏が漆畑元吉氏と共に大瀧發電所問題の調停に突進しつつあるは昨報の如くであるが其後平電氣野崎專務は利權慾熾烈にして到底水利權放棄の腑を固め難き爲め同盟會の抱きつつある意圖との距離甚だしきのみならず漆畑氏が起草せる同盟會より受けんとした覺書に依れば同會が此の解決難に窮した結果兩氏に仲裁を懇請せるが如き草案なる爲め青沼氏は到底同盟會が此覺書に調印せざるべきを知つて自から調停の身を退くに至つた

各大學生聯合講演會

郡內各所に

石城郡出身の早稻田、中央明治各大學生聯合主催となり來る二十七日より八月二日迄郡內各所に於て科學的內容の講演會を開催すべく早大勿來會中大七演會明大揚明會の事業として目下夫々準備中であるが講演會開催地日割及講演者氏名次の通りである

△二十七日（午後七時より十一時迄）植田窪田△△本△卅日內郷村△卅九日湯好間八月一日四倉△二日平▲講演者（早大）鷹崎正見、日野良太郎、比佐友香、小宅巽、松永正康（明大）西山由一、大越久太郎、永山忠文、鷺英雄、矢吹文明、渡邊三郎（中大）藁谷根本英雄、高野元、白土守男、庄田目左唐吉、黑澤除盛、杉本憲一

不振に傾く石城鰹漁

漁場は年々遠くなる一方

資本の合同が必要

石城郡沿海鰹漁の狀況を聞くに漁群は逐年沖へ移動し大正元年頃十五浬內外が鰹の漁區であつたが今日では百五十浬、二百浬が普通で此頃は二百五十浬の

海區で漁獲すると

云ふ有樣で之れは潮流の關係によるので已むを得ないが之れが爲めに船體も大きくなり當時八馬力十三噸位の鰹漁船は現在では三十馬力卅五噸位の船でなければ

漁穫す

ることが出來ず發動機に要する輕油も多量となり且一回に六百貫目の水を積載するので一回の出漁には約四百圓を要し鰹漁の經營は實に容易でなくなつた各濱で

昨年は

六十二艘の鰹船があつたが今年は四十二艘に減少したこの現狀で推移すると漁村の衰滅は免れないので之が救濟策としては資本の合同をなし共同

經營の

方法により百五十馬力二百噸以上の巨船で沖合に活動する靜岡縣地方の漁船と對抗するの必要があらうと中田江名濱漁業組合長は語つた

磐女同窓會

三室戸子爵講演

平町磐城高等女學校同窓會は二十三日午前十時開會三室戸子爵の講演ある筈

不平受付

投書歡迎

水泳場に關して平署には大工町裏の愛谷江堰を水泳場に指定する由ですが同所にはガラスの破片其他金屬等が河底に充滿して居て甚だ危險ですから若し水泳場に指定するのなら適當の設備を講じなければならぬと思ひますが如何でせうか（質問生）

▼伊藤平署長の答　危險は是れを防止し安心して兒童に水泳せしむる丈の設備は勿論必要ですから町當局とも打合せて見ませう

常磐片々

○

反對同盟會の幹部五名獄中の苦熱と健鬪しつゝあり

○

此苦難に遭遇せる同盟會員は一層結束を固からしめ打つて一丸となれ

○

而して資本家の暴手に奪はれんすとる永道の水を保全せよ

○

輕擧盲動は是れを戒しむべきも最後の決心は穿固たるを要す

○

繰り返して云ふ正義は最後の勝利也

國稅負擔の藝妓十五人

驚く賣上玉數

平稅務署に於ては他署同樣目下第三種所得稅の調査に忙殺されつゝあり調査終了までには尙若干の餘日を有することとて增減その他結果の詳細に就ては目下の處不明であるが獨り時節柄珍奇なる現象として平町の藝妓中所得稅資格者の激增を見たる事である右は抱主との間に行はるる收入分配の比率が從來に比し一般向上されたると調査の完璧によるものゝ如く尙藝妓のうれゆきが從來の如く某々二三の一流どころにかたよらず漸次平均し來れるもその一因に前年上半期の一人一箇月平均賣上高は四百五本にして本年は三百七十六本平均なるが納稅者は昨年度五人に對し本年は三倍の十五人に達する見込みであると尙之等の納稅者は年收往々六千圓內外を算するものあり營業上必要の經費を控除し納稅資格最低八百圓を下らぬものであるといふ

小兒の溺死

石城郡鹿島村大字走熊農源吉四男箱崎重藏（一〇）は十五日同村地內矢田川で水泳をなし溺死した

江名濱漁港の修築

二期工事計劃

石城郡江名濱は郡內隨一の漁場で漁獲高も逐年激增しあり將來一層の進展を期す可く工費十八萬圓を投じて漁港の修築を行つたが未だ完全を期することが出來ないので漁業組合では工費十萬圓で第二期の修築工事を起す可く縣費補助を今秋の縣會に提案を望み中田漁業組合長中山町長外有力家が奔走中である

弓道優勝旗

赤井支部に

石城弓術大會は十六日午前九時から關の上大正弓友會場にて開催優勝旗は赤井支部の手に歸したが尺二競射は一等佐藤助治、二等相田三次、三等大和田忠吉、四等矢內春吉五等高木源治の諸氏以下廿等迄又揚的は高原藤吾氏であると

郡電增燭宣傳

郡山電氣株式會社にては電燈增燭宣傳の爲め十五六の兩夜聚樂館にて活動寫眞會を催した

募集

文藝其他一般投稿を募集します